「ポスト５Ｇ情報通信システム基盤強化研究開発事業

／ポスト５Ｇ情報通信システムの開発（助成）」

に係る提案書フォーマット

*（総括的注意事項）*

*・イタリック体で記入されている部分を熟読してください。*

*・提案書の項目は削除・追加しないでください*

*・提案書の注意事項等（青字）は削除してください。*

*・特に注意がない場合は、項目間の行間は、適宜変更してください。*

*・事業年数に合わせて、表などの変更が必要な場合は、適宜変更してください。*

*・本書の末尾に、「審査基準と提案書の記載内容の対応表」があります。こちらを適宜参照・追記して作成ください。*

国立研究開発法人新エネルギー･産業技術総合開発機構

ＩｏＴ推進部　ポスト５Ｇプロジェクト推進室

（様式第１）

***社内文書番号がある場合は記入してください。***

***無い場合は削除してください。***

番 号

年 月 日

***（提出日を記載）***

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

 　理事長　　　　　　斎　藤　　保　 殿

***・代表者名には、役職・氏名を記載してください。***

***・代表者は会社の代表権のある方とします。***

***・共同提案の場合、提案者毎に作成してください。***

申請者 住 　所

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　名 　称

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者名

|  |  |
| --- | --- |
| e-Radの研究機関コード（１０桁） |  |

ポスト５Ｇ情報通信システム基盤強化研究開発事業提案書

（ポスト５Ｇ情報通信システム基盤強化研究開発事業）

**【共通部分】**

***共同提案の場合は、１～６については同じ記載としてください。***

1. 提案事業の名称

　研究開発項目：ポスト５Ｇ情報通信システムの開発

開発テーマ：（g3）競争力ある生成AI基盤モデルの開発

　提案テーマ名称：

***提案テーマ名称は、事業内容が分かる短く簡潔な名称とし、40字以内で記入してください。***

2. 提案事業の概要

***助成による事業内容を、全体計画概要及び年度の内容を200字～250字以内で記入してください。***

3. 提案事業の総費用 円

***・全期間における金額を記載してください。***

***・金額は円単位で記載してください。***

***例）150,000,000円***

***（150,000千円、15000万円、***

***１億５千万円等の記入は***

***しないでください。）***

***別紙２(１)全期間総括表の事業期間全体の合計を転記してください。***

うち公共性・公益性があると考える学術機関等との共同研究費

　 円

　 ***公共性・公益性があると考える学術機関等との共同研究費があれば記載してください。***

4. 助成金交付申請額 円

***別紙２(１)全期間総括表の事業期間全体の助成金の額を転記してください。***

うち公共性・公益性があると考える学術機関等との共同研究費

　 円

 ***公共性・公益性があると考える学術機関等との共同研究費があれば記載してください。***

5. 補助率　定額（１／１）、１／２

***中小企業等経営強化法に基づく特定事業者と学術機関等については定額助成とし、これに該当しない企業については助成率（１／２）を適用しますので、どちらか選択してください。***

6. 提案事業の開始及び終了予定年月日

開始年月日 　　　 　　 交付決定の日から

終了予定年月日 　　　　　交付決定の日から６カ月

***当初交付決定する期間は、６か月とします。***

**【個別部分】**

7. 免税事業者等に【該当・非該当】

***提出時に免税事業者等（※）に該当するか記載してください。***

***※免税事業者の他、消費税法における納税義務者とならない場合は「該当」としてください。***

8. 提案事業期間における資金計画

(1)収支計画

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 区分 | 2023年度 | 2024年度 |
| 支出 | 提案事業に要する経費 |  |  |
| 収入 | Ⅰ．自己資金 |  |  |
| Ⅱ．借入金 |  |  |
| Ⅲ．その他の収入 |  |  |
| (小計) |  |  |
| Ⅳ．助成金交付申請額 |  |  |
| 合計 |  |  |

***提案事業に要する経費は、別紙２「（４）項目別明細表」の合計を年度ごとに転記してください。***

***Ⅳ．助成金交付申請額は、別紙２「(２)助成先総括表」の助成金の額を年度ごとに転記してください。***

(2)借入金等の調達方法

***上記表を補足するため、必要な資金をいつどのように確保するか記載してください。***

9. 申請者の概要

(1)申請者名（法人番号）

(2)資本金　　　　　　　　　　 ***千円***

(3)従業員数（うち研究開発部門従事者数）　　　 ***名（　　　名）***

***資本金、従業員数は提出時点を基準としてください。***

(4)中小企業等経営強化法に基づく特定事業者・非特定事業者・学術機関等の種別 ***○○事業者***

***中小企業等経営強化法の第２条５項により該非を確認してください。***

(5)会計監査人名 ***○○監査法人　or　なし***

***企業の場合（委託先等は除く）は、上記（４）（５）を記載してください。大企業、中堅、中小、ベンチャー企業の種別は、本資料の下方の【参考】の定義を参照してください。会計監査人の設置については、会社法３３７条により大会社や指名委員会等設置会社などに設置が義務付けられている株式会社の機関の一つです。監査役と異なり、独立的な立場から財務諸表等の監査を行います。なお、大会社、委員会設置会社以外の株式会社も会計監査人を設置することができます。設置されている場合は公認会計士または監査法人名を記載してください。会計監査人の設置がない場合は”なし”と記入ください。***

(6)現在の主要事業内容（主な製品等）

***現在の事業内容（主な製品等）を記入してください。また、過去５年間に市場に出した主要な新事業または新製品をあげ、その売上高を記入してください。***

***例： 新事業/新製品名*** ***新事業/新製品の説明*** 　***売上高***

 ***年度 新製品名１ 　　～～～～～ 　　 ○○○百万円***

 ***新製品名２ 　　～～～～～ 　　 ○○○百万円***

 ***年度 新事業１ 　　　　　　～～～～～ 　　 ○○○百万円***

 ***年度 新製品名○ 　　～～～～～ 　　 ○○○百万円***

10. 提案事業に係る連絡先

担当者所属

役職・氏名

郵便番号、住所

電話番号

ＦＡＸ番号

Ｅメールアドレス

***審査期間における経済産業省商務情報政策局、ＮＥＤＯからの問い合わせ先等となります。テレワーク中等でも必ず連絡がつく電話番号を記載してください。***

***共同提案の場合は、幹事提案者にはその旨が分かる記載をしてください。提案全体に係る質問等は、幹事企業の連絡先に一元化して行う場合がございます。***

11. 提案事業に従事する人員

40歳以下の登録研究員数（うち、女性研究員） 　***３（１）***

41歳以上の登録研究員数（うち、女性研究員）　***１０（２）***

登録研究員合計（うち、女性研究員） ***１３（３）***

***助成先（委託先等は含まない）の登録予定の研究員を対象としてください。***

***年齢は助成事業の開始年度の４月１日時点を基準としてください。***

12．知的財産権及びプロジェクトの実績

(1)提案事業に関連した取得特許、ノウハウ等

***代表的な特許等のコピーを添付してください。特許は「審査請求中」、「特許取得済み」等の状況も記載してください。***

(2)国内・国外他社における関連特許の取得状況

***競合他社に対する優位性について記載してください。特に自社の保有する技術蓄積をどのように活用するのか、具体的に説明してください。***

(3)提案事業に関連したプロジェクト

***提案者（法人）が技術開発の基となったプロジェクト、開発活動等について、自社開発の有無(自社開発以外である場合は、共同研究先)、研究期間、研究内容、得られた成果を記述してください。***

***なお、ＮＥＤＯを含む国家プロジェクトの成果を使用する場合は、事業等の名称、実施期間を記述してください。***

***例： ○○事業　××年度～△△年度***

13.他の補助金制度等による交付金受給の有無

***提案事業に関連した技術開発で、これまでに国、ＮＥＤＯ、地方自治体等から過去から現時点で、委託又は補助金交付を受けたことがある場合あるいは現在提案中の場合には、その基本情報を明記してください。記述内容は、実施機関の名称、制度名称、対象期間、金額、概要（本提案との違いを含む）等を記載してください。なお、対象は助成先のほか委託先等についても記載して下さい。***

14.学術機関等との共同研究について公共性・公益性があると考える理由

***・収益納付の除外対象となる公共性・公益性があると考える共同研究費がある場合のみ記載をしてください。***

公共性・公益性があると考える共同研究費 　 円

***３．に記載する共同研究費と同額を記載してください。***

該当する事業項目

　　***事業項目を記載してください。（例：③△△△の評価技術の開発）***

学術機関等との共同研究の概要

***共同研究の概要を数行で記載してください。***

　公共性・公益性があると判断する理由

***公共性・公益性があると判断する理由。***

15.その他

***技術開発の内容を容易に推定できるキーワードを３語程度記載してください。***

***以下の資料について記載して下さい。***

 ***申請用書類等チェックリスト***

 ***添付資料１：助成事業実施計画書 (別紙１，別紙２含む)***

***添付資料２：事業化計画書***

***添付資料３：事業成果の広報活動について***

***添付資料４：非公開とする提案内容***

***添付資料５：委託理由及びその内容***

***添付資料６‐１：会社案内（会社経歴、事業部・研究所等の組織等に関する説明書）***

***添付資料６‐２：直近の３年分事業報告書及び直近３年分の財務諸表（原則、円単位：貸借対照表、損益計算書（製造原価報告書、販売費及び一般管理費明細書を含む））***

***別添１：主任研究者研究経歴書***

***別添２：その他の研究費の応募・受入状況***

***別添３：提案概要説明資料***

***別添４：事業開始年度の賃金を引き上げる旨の表明資料について***

***別添５：NEDO事業遂行上に係る情報管理体制等の確認票(助成)***

***補足資料：審査基準と提案書の記載内容の対応表***

***・「添付資料６‐１」は、提出先のＮＥＤＯ担当部と過去１年以内に契約等がある場合は添付不要です。***

（参考）会計監査人の定義

株式会社の会計監査を行う公認会計士または監査法人。会社法３３７条により大会社や指名委員会等設置会社などに設置が義務付けられている株式会社の機関の一つ。監査役と異なり、独立的な立場から財務諸表等の監査を行う。なお、大会社・委員会設置会社以外の株式会社も会計監査人を設置することができる。

（添付資料１）

***（注）添付資料１は外部有識者による事前審査に付されますので、審査材料として十分な内容を記述してください。ただし、外部有識者に提出したくない内容は、本紙には概要のみを記入し、詳細は添付資料４に記載してください。（この場合、本紙に記入する概要が簡略すぎると、評価者の判断材料が不足し、評価が低くなる恐れがあるので注意してください。）***

***（注）共同提案の場合、本書は共通の内容でご提出ください。共通で記載できない箇所については、別紙等とし個別提出を認めます。***

助成事業実施計画書

**１．実施計画の細目**

(1)事業目的、目標及び事業による効果

①事業目的

②事業目標

***・なぜ基盤モデルを開発するのか、そのためにどのような性能の基盤モデルを開発するのかについて記載してください。また、その掲げる目標が挑戦的か、成功した場合に画期的な成果が得られるかといった点も記述してください。***

***・目標については、国際的に比較して十分に優位なものを設定するとともに、「機械翻訳の最先端レベルに対してＮ％以上の性能を達成する」「JGLUEを使った日本語タスクベンチマークでＸ以上のスコアを達成する」といった定量的な目標値を設定してください。また、言語モデル以外の基盤モデルを開発する場合には適切なダウンストリームタスクを定義するなどして、定量的な目標値を設定してください。***

***・既存のベンチマークでは適切な評価が困難である場合には、提案者等が開発したベンチマークによる評価も認められます。その場合、開発ベンチマークの公開など、評価の透明性の確保にも努めてください。***

***・学習に用いるデータの数量（トークン数）、モデルのパラメータ数などについても記述してください。***

***・研究開発期間（事業開始から６ヶ月）の最終目標は必ず設定してください。***

***（記載例）***

【目標】

提案事業の最終目標及び研究開発計画との合致性（事業開始から6か月後）

|  |  |
| --- | --- |
| 研究開発計画中の最終目標 | ・開発した生成AIの基盤モデルが国際的に比較して十分な優位性があることを検証 ※提案者にて、ベンチマークや、「機械翻訳の最先端レベルに対してＮ％以上の性能を達成できる」といった目標を提案時に設定すること。 |
| 提案事業の最終目標 | ***（客観的に評価ができるように定量的に記載ください。）*** |

③事業による効果（学術的・社会的インパクトおよび公共性）

***その基盤モデルを開発することによる学術的・社会的インパクトや公共性について説明してください。***

(2)事業概要

　***(３)事業内容の概要を簡潔に記載してください。事業項目が複数に分かれる場合は事業項目毎に簡潔に示してください。***

(3)事業内容

***①データセットの構築（担当：A株式会社）***

***・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・***

***②基盤モデル開発（担当：B株式会社）***

***・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・***

***どのように開発を実施するのかについて具体的に記載してください。開発項目ごとに、開発方法、使用する計算リソース、使用するデータについても具体的に記載してください。***

***また、(１)*** ***研究開発計画における開発目標と******合致していることがわかるよう記載してください。目標を達成するために、技術開発で克服すべき課題とその問題を解決する手段、今回の開発で達成できるレベルを、明確にかつ簡潔にできるだけ図表を使用して記入してください。***

***加えて、提案する技術開発内容の新規性、独創性、開発によって期待されるブレークスルーや新しい価値、その他優れていると考えられる点を記載してください。FATE原則（公平性・説明責任・透明性・倫理）の観点で有益な取組がある場合にはそれらについても説明してください。***

***共同提案の場合、******それぞれの役割分担等を明示してください。委託研究/共同研究がある場合も同様にそれぞれの役割分担等を明示してください。また、学術機関等との共同研究のうち、公共性・公益性があると考える研究開発については、事業項目内にその旨と理由を記載してください。***

(4)開発に利用する計算リソースの希望

***経済産業省が提示する別紙のスロットＡ～Ｃについて、計算リソースの利用（助成対象分）を希望するものを選択・記入ください。***

希望するスロット（１つ選ぶこと）：　「Ａ」、「ＢまたはＣ」

※「ＢまたはＣ」の場合は、いかに希望順位を記載すること。

***（利用できないスロットについては記載せず、割り当てられた場合に利用できるスロットのみを記入すること）***

第一希望：

第二希望：

開発に利用する計算リソース（助成対象分以外を含める）とその見積もりの根拠：

***使用する計算リソースに関して、上記助成対象以外を含めた形で、開発項目ごとに計算リソースをどの程度の数量・どの程度の期間にわたって利用するかを記述するとともに、その見積もりの根拠を説明してください。助成対象以外の計算リソースを利用する場合には、そのリソース確保の実現可能性も含めて記載してください。***

(5)開発に利用する計算リソースの助成の追加に係る希望

より高い開発目標等を目指すため、(4)で回答したスロットを超えて計算リソース利用の助成を希望する場合には「希望する」を選択した上で、具体的な計算リソース利用量と、目標・事業内容がどのように変わるかを説明してください（ただし、助成対象となる計算リソースの利用期間を変更することはできない）。なお、追加を希望する場合には、（様式第１）の表紙や本実施計画書「４．助成事業に要する費用の内訳等」に追加した場合の金額を記載してください。

【助成の追加　希望する・希望しない　（該当する方を選択してください）】

計算リソース利用の希望量（(4)で回答したスロットと足し合わせた合計）：（　　）ノード

開発目標と事業内容の変更点

***助成対象となる計算リソース利用量の追加によって、目標がどの程度高まるか、事業内容がどのように変更になるかを、具体的に説明してください。***

(6)開発経験や実績

【開発経験　あり・なし　（該当する方を選択してください）】

その具体的な内容（開発経験が無い場合には記載不要です）

***これまでの生成AIや基盤モデル等の開発経験の有無やその実績を記載してください。開発経験や実績を有する場合には、その基盤モデルのスペック（パラメータ数、トークン数等）やベンチマーク指標、ユーザーからの評価についても記載してください。***

**２．実施計画**

***・上記「１.(3)事業内容」であげた技術開発項目毎の実施計画を記載してください。***

***・研究開発計画における開発目標と合致していることがわかるよう記載してください。***

***・全体事業計画および事業項目毎に、年度毎の目標（マイルストーン）を必ず設定し、記述してください。***

***・事業項目毎に、事業年度毎の目標に対してどのような手法（アプローチ）で達成を目指すのか文章で説明してください（委託研究、共同研究がある場合はそれぞれについて説明してください）。提案する研究開発がどのような道筋で実現可能であるかも述べてください。また、項目別明細表（別紙２）で機械装置等費に費用を計上している場合は、その装置がどの事業項目でどのように使われるのか､説明を加えてください。***

***（例）全体事業計画の記載例***

***最終目標***

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業項目 | 2023年度 | 2024年度 |
| ***①〇〇〇の設計******(担当:A株式会社)******②◇◇◇の開発******(担当:B株式会社)******③△△△の評価技術の開発(共同研究)******マイルストーン******（定量的に）******(担当:国立研究開発法人C)*** |  | **＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊** | **＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊** | **＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊** | **＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊****＊＊＊** | **＊＊＊****＊＊＊** |

**３．研究開発体制等**

***・開発内容を遂行するに足る体制となっていることを説明してください。特に我が国のAI開発人材基盤の強化に資する取組がある場合にはそれについて説明してください。***

　(1)研究開発体制図

【委託先】

○○○株式会社

（○○○○を委託）

（○○○○を委託）

（○○○を共同研究）

△△△株式会社

国立大学法人□□□大学

国立研究開発法人▽▽▽

【助成先】

【共同研究先】

 (2)助成先における研究体制（別紙１）

(3)委託先及び共同研究先における研究体制（別紙１）

(4)委員会等における外部からの指導又は協力者（別紙１）

**４．助成事業に要する費用の内訳等**

　 (1)全期間総括表（別紙２）

　 (2)助成先、研究分担先、分室総括表（別紙２）

　 (3)委託先、共同研究先総括表（別紙２）

　(4)項目別明細表（別紙２）

別紙１

　（2）助成先における研究体制

　*エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*



別紙１

　（3）委託先及び共同研究先における研究体制

　*エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*



（4）委員会等における外部からの指導又は協力者

*エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

ア．***×××委員会***における登録委員

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 氏名 | 所属 | 役職 |
|  |  |  |

イ．有識者からの指導・助言等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 所属 | 役職 | 指導・助言等の内容 |
|  |  |  |  |

別紙２

**４．助成事業に要する費用の内訳等**

　 (1)全期間総括表



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※各年度の「助成対象費用の合計」を記入して下さい。*

*※委託先又は共同研究先は、助成先の「助成対象費用の合計」の内数として、委託先等の「助成対象費用の合計」を（ ）書きで記載してください。*

*※助成金の額は、千円未満の端数を切り捨てること。*

別紙２

　 (2)助成先、研究分担先、分室総括表



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※共同提案の場合、提案者毎に作成してください。*

*※助成対象である計算リソース利用料のみを「諸経費」として計上してください。*

別紙２

(3)委託先、共同研究先総括表



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※助成先がNEDOへ計上する助成対象費用は、原則、消費税抜き額になります。（ただし、委託契約は消費税の課税取引となりますので、助成先と委託先の関係では、「総計」精算します。）(免税事業者等を除く。)*

*※「委託費・共同研究費」、「学術機関等に対する共同研究費」の場合は、事業者毎に「委託先、共同研究先総括表」を作成して下さい。*

*※助成対象である計算リソース利用料のみを「諸経費」として計上してください。消費税及び地方消費税についてはⅠ～Ⅳに対応する消費税額を記入して下さい。*

別紙２

　(4)項目別明細表



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※複数年度交付決定の場合、年度毎に作成してください。また、共同提案の場合、提案者毎に作成してください。*

*※計算リソース利用料の金額(単価×利用期間等の内訳)のみを計上してください。記載する金額は、消費税抜きとします。*

*※**学術機関等に対する共同研究を実施する場合は、上記の補助率によらず、定額助成とすることが可能です。*

*助成金の額は、Ⅰ～Ⅳ１．委託費・共同研究費の合計に補助率を乗じ、千円未満を切捨てた金額に、Ⅳ２．学術機関等に対する共同研究費を加算した額を記載してください。*

*※助成先がNEDOへ計上する助成対象費用は、原則、消費税抜き額になります。（ただし、委託契約は消費税の課税取引となりますので、助成先と委託先の関係では、「総計」精算します。）（免税事業者等を除く。）*

*※応募者が消費税の免税事業者等（＊）の場合は、次頁の「項目別明細表（助成先用）（免税事業者）」に記載してください。*

*（＊）消費税の課税事業者となるか免税事業者となるかについては、具体的には国税庁のホームページ等に記載がありますが、様々な要件にて判定されるため、不明な場合は税理士等にご確認ください。また、国又は地方公共団体等が一般会計に係る業務として行う事業については、免税事業者と同様の取扱とします。*

別紙２



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※複数年度交付決定の場合、年度毎に作成してください。また、共同提案の場合、提案者毎に作成してください。*

*※計算リソース利用料の金額(単価×利用期間等の内訳)のみを計上してください。記載する金額は、消費税抜きとします。*

*※学術機関等に対する共同研究を実施する場合は、上記の補助率によらず、定額助成とすることが可能です。*

*助成金の額は、Ⅰ～Ⅳ１．委託費・共同研究費の合計に補助率を乗じ、千円未満を切捨てた金額に、Ⅳ２．学術機関等に対する共同研究費を加算した額を記載してください。*

*※助成先がNEDOへ計上する助成対象費用は、消費税抜き額になります。（ただし、委託契約は消費税の課税取引となりますので、助成先と委託先の関係では、「総計」精算します。）（免税事業者を除く。）*

別紙２



*（注）*

*※エクセルのシートを図形式で貼り付けてください。*

*※「委託費・共同研究費」、「学術機関等に対する共同研究費」の場合は、事業者毎に「項目別明細表（委託・共同研究先用）」を作成して下さい。*

*※複数年度交付決定の場合、年度毎に作成してください。*

*※細目ごとに金額(単価×数量)を記述してください。記載する金額は、消費税抜きとします。*

*※「助成対象費用」には、「助成事業に要する費用」のうち、助成対象とする部分の金額を記入してください。一般には、「助成事業に要する費用」と同額です。*

*※「助成金の額」には、様式第１に記述の補助率に従い、「助成対象費用の合計」に補助率を乗じて千円未満を切捨てた金額を記入してください。ただし、学術機関等における共同研究費の場合は、「助成金の額」に「助成対象費用の合計Ａ」と同額の金額を記入してください。*

（添付資料２）

事業化計画書

***（共同提案の場合、提案者ごとに記述してください。）***

（国内生産・雇用、輸出、内外ライセンス収入、国内生産波及・誘発効果、国民の利便性向上等の形を通じて、我が国の経済活性化の実現に努めるものとして、想定の範囲で記述してください。）

1. 研究開発を行う製品・サービス等の概要

(1)内容

***製品・サービス等の内容や、研究開発の成果が、当該製品・サービスへどのように反映されるかを記載してください。またそれによる社会への波及効果についても説明してください。***

(2) 製作・実施等の制約

***製品・サービス等の製作・実施にあたって、必須となる材料等の調達先（国、企業、産地等）や制約等、サプライチェーン上の立ち位置等を記載してください。***

(3)用途（販売予定先）

***当該製品・サービスの販売ルート（国、地域含む）、販売先等を記載してください。この販売先以外の分野等で利用できる場合は、それについても記載してください。また、自らが実用化・事業化するのではない場合には、どの様な形で製品・サービスが実用化されることを想定しているのかについて記載願います。ライセンスビジネスも構想している場合は、併せて記載下さい。***

(4)成果の公表、モデル等の公開に向けた計画

***成果の公表、モデル等の公開に向けた計画がある場合には、開発詳細の公表、モデルのオープン化、開発コード・データ等のオープン化の取組について説明してください。モデルの開発プロセス（データ収集、データ前処理、モデル構築、モデル評価等）ごとに、どのような内容を公表できるかについて、その理由も含めて記載してください。また、開発したモデルを公開するかどうかについて、その理由も含めて記載してください。***

2. 研究開発への取組

***実用化を目指す上での開発計画（開発拠点含む）、投資計画（製造拠点含む）、実用化能力を説明記載してください。また、当該事業で行われる技術開発の内容以外で平行して行われるべき知財・標準化等の戦略や、その他実用化・事業化のために必要な技術開発内容や、製品設計内容がある場合はそれらを具体的に記載し、どの様に達成するかについても併せて記載願います。***

(1)研究開発を考えるに至った経緯（動機）

(2)事業として成功すると考えた理由

***事業の新規性、独創性、他との競争力、生産計画、販売計画など具体的に述べた上で、事業として実現するためのポイントを説明してください。***

(3)事業化のスケジュール

***助成期間終了後５年間の事業化計画を、生産・販売・市場獲得などの具体的な事業化の段階に区分し、事業化の各段階が明瞭となるよう線表で記述してください。***

***事業化の各段階において、事業化の中断や延期など、事業化全体の計画変更を考慮する必要がある重大な障害を予想し、記述してください。***

***また、重大な障害が回避し得ない場合、どの時点で計画変更の判断を下すのかを、線表に記入してください。***

***生産・販売の一部又は全部を自社で行わない場合は、委託先の選定、協力体制等を具体的に記述してください。***

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ***年度*** | ***N年度*** | ***N+1年度*** | ***N+2年度*** | ***N+3年度*** | ***N+4年度*** |
| ***（例）製品設計******設備投資******生産******販売******収益発生*** |  |  | 　 　***◇続行/***  | ***中断を判断***  |   |

***予想される重大な障害：***

***製品設計段階 ：～～～～～～***

***設備投資 ：～～～～～～***

***生産 ：～～～～～～***

***販売 ：～～～～～～***

3. 事業化戦略（オープン＆クローズ戦略等を含む）

***研究開発成果の社会実装に向けて、事業化戦略等（社会実装の確度を高めるための取組、事業内容に応じたオープン＆クローズ戦略を含む）に関して、国内外の動向等とともに、具体的な取組内容を記載ください。***

(1)国内外のターゲット市場の状況・動向や自社の取組状況

***国内外のターゲット市場の状況、標準化、知財、規制等の動向等について記述してください。また、これまでの自社による標準化、知財、規制対応等に関する取組等について記述してください。***

(2) 本事業における社会実装の確度を高めるための具体的な取組内容（オープン＆クローズ戦略を含む）

***（例１）エコシステムの構築***

***※どのような協業、アライアンスにより、サプライチェーンを構築し、社会実装を高めていくかなど***

***（例２）オープン戦略***

***※バリューチェーン、ニーズの喚起、仲間作りの方法、実証方法やユーザ獲得方法など。***

***（例３）クローズ戦略***

***※技術領域、競合、知財による勝ち筋など記載***

4. 市場の動向・競争力

(1)市場規模（現状と将来見通し）／産業創出効果

***販売開始後5年経過までの国内と海外の市場規模推移（百万円）を示し、その根拠を記述してください。提案者のみの市場シェアにこだわらず開発した製品の市場規模として捉えてください。***

***また、市場における提案者のシェアの推移を見通し、その根拠を記述してください***。

 ***市場規模*** ***提案者のシェア***

***例：1年目（　年度） ○○○百万円 　　％***

***2年目（　年度） ○○○百万円 　　％***

***～～***

***5年目（　年度） ○○○百万円 　　％***

***市場規模算出の根拠：～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～***

***シェア見通しの根拠：～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～***

(2)競合が想定される他社の開発動向とそれに対する優位性の根拠

***競合が想定される他社の製品・サービスに対し、予想される価格・仕様などを考慮して、本技術開発により完成した自社製品・サービスの優位性についてその根拠を含めて説明してください。***

(3)価格競争力

***競合製品・サービスの市場価格と自社製品価格の比較、損益分岐点など、価格競争力の算出根拠を記述してください。***

5. 売上見通し

(1)売上見通し（単位：百万円）

***販売開始後5年経過までの売上と収益の見通しを記述してください。また、販売単価、販売数、原価など、売上と収益の算出根拠を記述してください。***

 ***販売単価 　販売数 　　　　　　売上 　　　　　製品原価 　収益***

***例：1年目（　年度） ○○万円 　○○○個 ○○○百万円 ○○○百万円 ○○百万円***

***2年目（　年度） ○○万円 　○○○個 ○○○百万円 ○○○百万円 ○○百万円***

***～～***

***5年目（　年度） ○○万円 　○○○個 ○○○百万円 ○○○百万円 ○○百万円***

(2)売上見通し設定の考え方（算出の基本となる製品、サービス等の予定価格等を具体的に記述すること。）

***どのような仕組みで収益を得るのか、投資額など収益の算出根拠を含め、収益計画を記述してください。***

6. 研究成果の社会実装へのコミット

(1)組織内の事業推進体制

***前述の事業化計画を進めるための組織内の経営者以下の体制と役割分担を網羅的に記載（研究開発を担う部門だけでなく、事業化に関与する部門も明記し、関与する専任・併任の人員規模の想定を記載）***

***確実な社会実装を実現する上で、事業化戦略を研究開発段階から見据えて取り組むことが求められるため、事業化担当部門と連携した実施体制を構築し、体制図に記載***

***部門間の連携を図るための具体的な方策（定期的に部長レベルで相互の進捗報告を行う、経営者直轄の専門組織を設置する等）を記載***

①組織内体制図

***例：***

***XX部***

***J部長***

***（事業化/標準戦略***

***担当）***

***連携***

***チームA***

***①XXXを担当***

***チームリーダーG***

***チームB***

***②XXXを担当***

***チームリーダーH***

***チームC***

***③XXXを担当***

***チームリーダーI***

***代表取締役社長 aa aa***

***（事業にコミットする経営者）***

***XX本部***

***E本部長***

***（研究開発責任者）***

***XX部
F部長***

***連携***

***D部***

***XXXを担当***

***連携***

②組織内の役割分担

***例：***

***研究開発責任者と担当部署***

* ***研究開発責任者***
	+ ***E本部長：XXXを担当***
* ***担当チーム***
	+ ***チームA：①XXXを担当（専任○人、併任○人規模）***
	+ ***チームB：②XXXを担当（専任○人、併任○人規模）***
	+ ***チームC：③XXXを担当（専任○人、併任○人規模）***
	+ ***D部（F部長）：XXXを担当（専任○人、併任○人規模）***
* ***チームリーダー***
	+ ***チームリーダーG：XXX等の実績***
	+ ***チームリーダーH：XXX等の実績***
	+ ***チームリーダーI：XXX等の実績***

***事業化/標準戦略担当***

* + ***J本部長***

***部門間の連携方法***

* ***XXX***
* ***XXX***

(2)経営戦略における事業の位置づけ

***事業の経営課題としての優先度と中長期的な企業価値向上に向けた取組を示すため、具体的取組内容を記載してください。特に、日本国内に基盤モデル開発の中心的拠点を設置するなど、日本における長期的な基盤モデル開発のコミットメント状況が分かるよう記載ください。***

***※以下に示した項目はあくまで例示であり、個社の事情に即して、記載内容を整理してください。***

***例：***

* ***経営戦略への位置づけ、事業戦略・事業計画の決議・変更***
	+ ***XXX
	（本提案に関連する事業戦略又は計画を明確に経営戦略に位置づけ、取締役会で意思決定しているか。その内容を社内の関連部署に広く周知するか）***
	+ ***XXX
	（事業の進捗状況や課題を取締役会等でモニタリングし、事業環境の変化等に応じて見直しを行うか）***
	+ ***XXX
	（上記で決議された事業戦略・計画において、本提案が不可欠な要素として、優先度高く位置づけられるか）***
* ***コーポレートガバナンスとの関連付け***
	+ ***XXX
	（上記の経営戦略や事業戦略・計画が目指す成果にも関連して、どのように取締役の選任、評価、報酬等が設定されているか）***

（添付資料３）

事業成果の広報活動について

提案者名称

助成事業の名称

　本事業では、交付規程第９条第１項二十二号及び第２３条第４項に定める報道機関その他への成果の公開・発表等については、公募要領に従い、以下のとおりとします。

1. 本事業の成果、実用化・製品化に係る発表又は公開（取材対応、ニュースリリース、製品発表等）を実施する際は事前にＮＥＤＯに報告を行うものとする。特に記者会見・ニュースリリースについては事前準備等を鑑み原則公開の1ヶ月前に報告を行うものとする。

　②　報告の方法は、文書によるものの他、電子媒体（電子メール等）による通知を認める。その際、ＮＥＤＯからの受領の連絡をもって履行されたものとする。

　③　公開内容についてＮＥＤＯと事業者は内容を調整・合意のもと、協力して効果的な情報発信に努めるものとする。

　④　前項目に基づき発表又は公開する場合において、特段の理由がある場合を除き、記載例を参考にしてその内容がＮＥＤＯ事業の成果として得られたものであることを明示する。なお、その場合には、ＮＥＤＯの了解を得てＮＥＤＯのシンボルマークを使用することができる。

【成果の発表又は公開する場合の記載例】

「この成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）の事業において得られたものです。」

【事業化・製品化等について発表又は公開する場合の記載例】

「これは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）の事業において得られた成果を（一部）活用しています。」

（添付資料４）

**秘密**

非公開とする提案内容

***評価時に非公開としたい内容がある場合には、本用紙にその内容を記入してください。***

***非公開としたい内容がない場合には、「非公開としたい内容がない」旨を一文明示してください。本用紙に記載された内容は、委員の評価を含め、外部には公表されません。ＮＥＤＯ内部で行う選定の判断にのみ使用します。なお、様式第１ 及び添付資料１、２は、評価者が内容を確認しますので、非公開としたい内容は省いておいてください。ただし、非公開の内容が多くなりますと、評価者の判断材料が不足し、評価が低くなるおそれがありますので注意してください。***

整理番号　　***（ＮＥＤＯ にて記入しますので、空欄としてください）***

提案者名称

助成事業の名称

（添付資料1）助成事業実施計画書

1.(3)事業内容

（添付資料2）事業化計画書

1. 研究開発を行う製品・サービス等の概要

2. 研究開発への取組

3. オープン＆クローズ戦略等

4. 市場の動向・競争力

5. 売上見通し

6. 研究成果の社会実装へのコミット

（その他）

（添付資料５）

委託理由及びその内容

***委託先等（委託先、共同研究先等）がある場合は、委託先等毎に委託等を行う合理的理由、委託等される業務を履行する能力、委託額等、助成の額に占める各年度の委託額等の割合（提案者が複数の場合は、委託元1者に対する委託費の割合）等を記載してください。***

***なお、委託および共同研究の助成対象費額（複数者に委託等する場合は、複数者への委託費の合計）は、原則として助成先の助成対象費用の総額の５０％未満です（提案者が複数の場合は、委託元１者に対する委託費の割合とします。但し、年度毎にこの割合を満たす必要はありません）。***

|  |  |
| --- | --- |
| 委託元 |  |
| 委託先の名称 | ***○○大学　○○学部　○○学科　○○　○○教授*** |
| 委託先の住所等 |  |
| 委託を行う合理的理由 | ***連名契約による場合と比べて、特に効率が高い理由を含めること。***  |
| 委託を行う業務範囲 |  |
| 委託予定金額と助成対象費総額に対する割合（事業期間全体における割合） | 　　　　　　　円（　　　％） |
| 備考 |  |

備考：この表は委託先毎に作成してください。

（補足資料）審査基準と提案書の記載内容の対応表

***下記審査項目に対応する記述がある場所を、（参照先）の列の青字見本を参照に、記載してください。***

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 審査大項目 | 審査小項目 | （参照先）ここを読んでください |
| **ⅰ.提案技術の評価** | **研究開発計画との合致性** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書1. 実施計画の細目（１）事業目的、目標及び事業による効果②事業目標、（３）事業内容******2.実施計画*** |
| 提案内容の**新規性** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書******1,実施計画の細目（１）事業目的、目標及び事業による効果②事業目標、（３）事業内容******（添付資料２）事業化計画書******２.研究開発への取り組み*** |
| 目標とする**技術レベル・性能（定量的な目標）** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書******1.実施計画の細目（１）事業目的、目標及び事業による効果②事業目標、（３）事業内容******（添付資料２）事業化計画書******4.市場の動向・競争力　（２）競合が想定される他社の開発動向とそれに対する優位性の根拠*** |
| 提案開発の**実現可能性** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書******1.実施計画の細目（３）事業内容、（４）開発に利用する計算リソースの希望******2.実施計画******（添付資料２）事業化計画書******２.研究開発への取り組み******（別紙２）（2）助成先総括表*** |
| **ⅱ.提案者の能力評価** | **開発実績** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書******1.実施計画の細目（５）開発経験や実績******（様式第１）12.知的財産権及びプロジェクトの実績******（別添１）主任研究者研究経歴書*** |
| **実施体制の妥当性** | ***（添付資料１）助成事業実施計画書******1.実施計画の細目（２）事業概要******2.実施計画******3.研究開発体制等*** |
| **ⅲ.実用化・事業化の評価** | **成果の公開度**、及び国民生活や**社会への波及効果** | ***（添付資料２）事業化計画書******1.研究開発を行う製品・サービス等の概要（４）成果の公表、モデル等の公開に向けた計画******（添付資料１）助成事業実施計画書******1.実施計画の細目（１）事業目的、目標及び事業による効果　③事業による効果*** |
| 想定する**市場規模** | ***（添付資料２）事業化計画書******4.市場の動向・競争力　(１)市場規模（現状と将来見通し）/産業創出効果*** |
| 実用化・事業化**計画の具体性・実現可能性** | ***（添付資料２）事業化計画書******2.研究開発への取り組み******3.オープン＆クローズ戦略等******6.研究成果の社会実装へのコミット*** |